

4. 6 学習活動に関するアンケート・ヒアリング

4. 6. 1 アンケート、ヒアリングの目的

小学校における児童の活動の主体である学習活動は、講義や演習などの一般的な活動と実験や観察、調理などの実習的な活動に大別した場合、実習的な活動が大きな割合を占めるケースもあり、また、これらの実習活動が特別教室ではなく、普通教室の廻りで多く実施されていることもある。各教科、学年における学習活動の実態を把握するため、教科を担当している総合教育センターカリキュラムセンターの指導主事に対して学習活動における活動単位及び活動場所に関するアンケート調査を行った。また、このアンケート結果を踏まえたヒアリングを行い、アンケート内容の確認、教科による特性の把握に努めた。

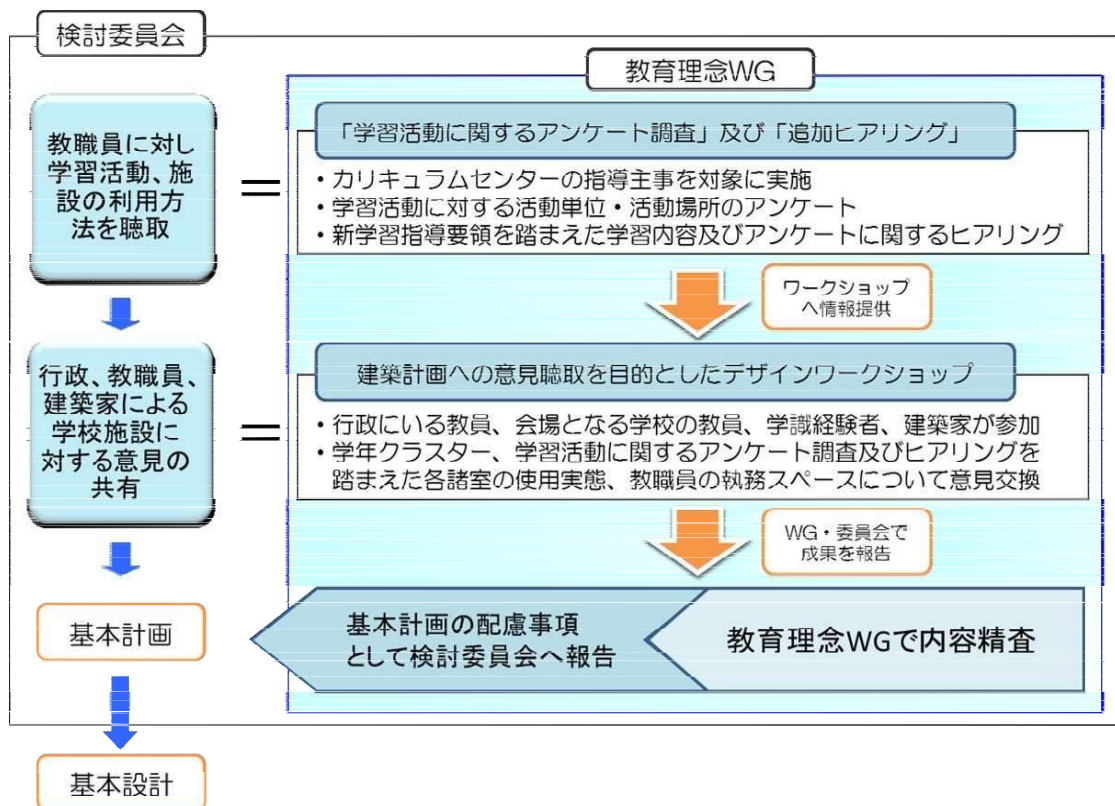


図 4-15 学習活動に関する調査の検討フロー

4. 6. 2 アンケート概要

(1)対象者

小学校の教科等（国語、社会、算数、理科、生活、総合、図工、家庭科、外国語活動、道徳、特別活動）を担当する総合教育センターカリキュラムセンター指導主事

(2)アンケート内容

小学校の児童の活動の主体である学習活動は、講義や演習などの一般的な活動と実験、観察、調理などの実習的な活動に大別される。本アンケートでは、実際に教科を担当している教員を対象に、学習活動の内容とその活動場所についてアンケートを行い、基本計画における諸室の計画や設えを検討する際の資料とすることを目的としている。アンケート内容を次ページに示す。

表 4-22 アンケート内容（各教科、学年における学習活動の実施状況について）

	学習活動の分類	活動例	活動単位	実施状況					
				場					
				普通	廊下	多目的	特別	体育館	屋外
一般学習活動	一斉説明・連絡	教科の説明、音読、連絡事項の伝達、オリエンテーリング、学習方法の説明	学年 クラス グループ 個別						
	発表	調べ学習の成果発表、個人学習の成果発表、グループ学習やT.Tなどのまとめ発表、演劇・寸劇	学年 クラス グループ 個別						
	話し合い	学級会、グループ毎の話し合い、学習方法の説明、学習のまとめ	学年 クラス グループ 個別						
	調べ学習・まとめ学習・読書	調べ学習及びまとめ、発表準備作業、コンピュータを用いた情報収集、読書	学年 クラス グループ 個別						
	問題演習・課題演習	筆記テスト、演習問題（プリント・ドリル学習を含む）、コンピュータの演習問題、作文・感想文を書く	学年 クラス グループ 個別						
実習学習活動	製作	工作、調理、裁縫、絵（ものをつくる活動、生産的な活動）	学年 クラス グループ 個別						
	実験	化学実験、温度測定（物事の仕組みや現象を確かめる活動）	学年 クラス グループ 個別						
	観察	植物観察、自然の変化を探す（動物や植物、自然の様子を理解する）	学年 クラス グループ 個別						
	体験	遊ぶ、陰がどこにできるか（自分で体験することで、その感覚や気分を味わうことを目的とした活動）	学年 クラス グループ 個別						
	採取	木の葉を集める、石を拾う（ものを集めてくる、見つけてくる活動）	学年 クラス グループ 個別						
	栽培、飼育	植物、動物（植物や動物を自らが育てる活動）	学年 クラス グループ 個別						
	生活的な活動	児童会活動	児童会の計画や運営、異年齢集団による交流、学校行事への協力	学年 クラス グループ 個別					
クラブ活動		クラブの計画や運営、クラブを楽しむ活動、クラブの成果の発表	学年 クラス グループ 個別						
学校行事		儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事、遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事	学年 クラス グループ 個別						

【活動単位の考え方】
 学年：学年単位で行うもの
 クラス：クラス（学級）単位で行うもの
 グループ：4～5人のグループ（班）単位で行うもの
 個別：児童1人1人を単位として行うもの

【場の考え方】
 普通：普通教室を活動場所として使用するもの
 廊下：廊下を活動場所として使用するもの
 多目的：多目的室や児童会室など普通教室、特別教室以外の諸室を活動場所として使用するもの
 特別：特別教室を活動場所として使用するもの
 体育館：体育館を活動場所として使用するもの
 屋外：校庭など校舎外（学校敷地内）を活動場所として使用するもの

参考文献）小学校における児童の一日の学習・生活活動の実態（1999）倉斗、上野
 ※活動単位 ○：平常的な活動単位、○：授業の合間などで定期的に活動する単位、△：学期や年間で数度活動する単位、×：活動しない
 ※場 ○：平常的な活動場所、○：授業の合間などで定期的に活動する場所、△：学期や年間で数度活動する場所、×：活動しない

(3) アンケート結果のまとめ①

各教科、学年における学習活動の実施状況に関する調査の結果について

◎：通常の活動単位、○：授業の白配などで定期的に活動する単位、△：学期や年間で数回活動する単位、△：学期や年間で数回活動する場所、△：活動しない
◎：通常の活動単位、○：授業の白配などで定期的に活動する単位、△：学期や年間で数回活動する単位、△：学期や年間で数回活動する場所、△：活動しない

◎：通常の活動単位、○：授業の白配などで定期的に活動する単位、△：学期や年間で数回活動する単位、△：学期や年間で数回活動する場所、△：活動しない
◎：通常の活動単位、○：授業の白配などで定期的に活動する単位、△：学期や年間で数回活動する単位、△：学期や年間で数回活動する場所、△：活動しない

Table with columns for learning activity categories (e.g., 学習活動, 家庭科, 生活, 総合) and sub-categories (e.g., 活動単位, 多目的, 特別, 体育館, 屋外). Rows include activities like 教科書の読み、音読、連絡事項の伝達, 製作, 実験, 観察, 体験, 採集, etc. Includes a legend for activity units and locations.

(3) アンケート結果のまとめ②

各教科、学年における学習活動の実施状況に関する調査の結果について

(活動単位) ◎：平均的な活動単位、○：授業の合間などで定期的に活動する単位、△：学期や年間で数回活動する単位、×：活動しない
 (場) ◎：平均的な活動場所、○：授業の合間などで定期的に活動する場所、△：学期や年間で数回活動する場所、×：活動しない
 (記号に基づく色) ◎：青、○：赤、△：緑、×：黒、◎：黄、○：紫、△：青、×：黒

学習活動の分類	活動例	進級				国工				特別				理科											
		活動単位	普通	廊下	多目的	特別	体育館	屋外	活動単位	普通	廊下	多目的	特別	体育館	屋外	活動単位	普通	廊下	多目的	特別	体育館	屋外			
1 学習活動	教科の説明、教科書、通達事項、授業計画、ワークシート、学習指導要領の活用	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	授業	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	話し合い	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	調べ学習・非公式学習	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	問題解決・課題学習	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
		クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
製作	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
実験	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
観察	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
体験	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
探求	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
観察、創作	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
児童会活動	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
クラブ活動	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
学校行事	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
集約している学習活動	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
主な活動単位	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
主な活動場所	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
学年による学習活動の違い	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
アンケート結果	学年	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	クラス	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

4. 6. 3 ヒアリング概要

(1)ヒアリング実施日・対象者

小学校の教科等（国語、社会、算数、理科、生活、総合、図工、家庭科、外国語活動、道徳、特別活動、音楽、体育、健康教育）を担当する総合教育センターカリキュラムセンター指導主事

(2)ヒアリングの質問事項

主な質問事項は以下である。

- ア. 学習内容に関する全般的な内容
- イ. 発表活動に関する内容
- ウ. 活動単位、活動形態に関する内容
- エ. グループ活動など広さを必要とする活動に関する内容
- オ. 普通教室又は普通教室と連続したスペースで行う学習活動に関する内容
- カ. 黒板の使い方、活動に関する内容
- キ. 製作物などの掲示、展示に関する内容
- ク. 現在の ICT 機器の活用に関する内容
- ケ. 今後の ICT 機器の活用に関する内容
- コ. 特別教室（教科専用教室）に関する内容

(3)ヒアリングの結果

ヒアリングは教科別に行ったが、全教科の主事に対するヒアリング内容を上記(2)の項目毎に抜粋して以下に整理した結果を示す。

ア. 学習活動に関する全般的な意見

No.	ヒアリング意見	教科
1	完成品として模造紙を使う場合と思考ツール(ブレインストーミング等)として模造紙を使うことがある。完成品は作る時間が必要となるので、毎単元で作成することはできない。教員や学年によって異なるが、他の教科でも模造紙を使った発表は年数回行われている。	社会
2	学習指導要領の改訂によって大きく変わった点は少なく、従来から実践的、体験的な活動を大事にしてきている。何かを見て、感じてという基本スタンスは変わっていない。中身については学習するべきものが増えていく。急に実習や話し合いが増えているという訳ではない。言語活動の充実が特化されたことで、指導計画の中で明確に位置づけるように説明している。一方的に教員が教える一斉指導は従来から行っていない。普通教室、特別教室で児童が主体的な活動ができるように教員は考えていかなければならない。	家庭
3	家庭科室については、ミシンや裁縫だけでなくグループワークや実験的なものを行う場合に使用している。1人1調理を行っている場合もある。調理器具は共用で使っても自分の分は自分で作る、全ての工程を1人でやっている。家庭科の学習は「野菜をゆでる方法など」を理解することなので、誰かの行っているものを見るだけではダメである。	家庭
4	製作について、1時間で完成するものは無く、4~6時間くらいかけて行う。実験については1時間で終わる内容もある。手縫いのもの、ミシンのものも子ども自身が生活を振り返り、必要だと思うものを作っている。(できれば裁縫箱は危険なので、普通教室に置かないようにして欲しい。準備室に置くようにして欲しい。仮に準備室が無い学校に対しては段ボール箱に入れて家庭科室の隅に置くようにお願いしている。)作品は布のものが多く、ちょっとした棚があれば製作過程のモノをしまっておける。完成品の展示については、学年一斉に展示することは難しいが、家庭科室を中心に掲示し、普通教室に展示していることもある。トートバック、巾着袋、ランチョンマット、ティッシュケースなどを作ることが多い。	家庭
5	観察については、学校内の汚れているところを探さずに行っている事例はある。換気では窓の無い教室に子どもを連れていき、臭いや暑さを体験してもらっている。採取はあまり無いが、あえて汚れをつけることが考えられる。栽培・飼育については、総合など他の教科で芋を育てる活動をしていることもあり、それを調理しているので印を付けた。家庭科自体で栽培などを行うことは無い。	家庭
6	問題演習とは課題について考える、実習活動の流れを考える(洗濯の仕方など)ものを想定して回答している。	家庭
7	屋外については、校庭内、学校周辺(外周)くらいである。ゴミが落ちている場所、日が当たる場所などを観察で使うことがある。	家庭
8	1、2年生は生活科を核にしてカリキュラムを作ること考えられる。子どもには幼児教育とのギャップがあるので、スペースを作って管理する、教科の枠組みの中で生活することがはじめは難しいと言われているので、国語や算数の授業はあるが、子どもにとっては学校を歩き回って好きなものを教える、友達と遊ぶ時間を構成することが必要であり、低学年にそのようなスペースがあることが必要となる。家庭科室や図工室を使うような活動もあるが、高さの違いは工夫して使うようにしている。どのようにすれば使うことができるかを考えることも重要である。	生活
9	クラス単位で一斉説明をすることもあるが、「体験する、話し合う」を繰り返して行っているので、学校全体を使っている。適正規模であれば学年単位で活動することもある。地域のおじいちゃんや幼稚園児と関わることを目的とする授業があるが、人数が多いと対象者が多くなってしまふ。2、3クラスであれば実施できると思う。	生活
10	調べ学習として何かを書くことは無いが、本を見ることや、行って試してみることを想定している。図書室は行くこともあるが、図書を子どもたちの生活空間に持って来て使うことが多い。一斉で説明することはあるが、活動は個々で行うことになる。話し合いをして製作や実験をすることは1つの授業で行われている。一箇所に集まって説明をして戻す活動を行っている。	生活

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
11	製作としては、自然のものを拾ってきて作る、理科に繋がるものとして動くおもちゃ（風やゴムを使って作る、パラシュートを上から落とす）などを作っている。実験としては、花で色水を作るなど試す活動である。アサガオは石鹼を入れると青くなって色が変化する活動、一番飛ぶゴムを調べるなど。観察は虫や金魚、亀などの生き物を廊下に置いている場合もある。また、自分で虫を取ってきて、近い環境を作って飼う。虫も死んでしまうので、そこまでの様子を観察している。何を飼うかは決まっていない。モルモットでもハムスターでもよいが、アレルギーを心配して避ける傾向にある。普通教室は食事をする空間でもあるので、そこで生き物を飼うのは衛生面に配慮する必要がある。栽培としては、外やベランダで野菜を育てることなどである。体験は公園で遊ぶ、季節を感じる、まち探検、学校探検などを行っている。教員によって実施方法は異なっている。学校の立地条件によってできることが変わる。生活科に力を入れていると掲示が綺麗である。	生活
12	体育館を使用する場面としては、おもちゃランド、フェスティバルなどを学年で催し物を行っている際に使用している。体育館で製作するのではなく、できているものを使って催しものを行っている。調べ学習については、学校探検のようなもので体育館に何があるのか調べることを想定している。話し合いで屋外を選択しているのは、観察をしに屋外へ行った時に話し合うこともあると想定しているもの。整理して話し合うことを想定しているものではない。何かあれば集まって説明し、また分かれるなどである。廊下については、普通教室では取まらない活動を行う場合は想定したもの。虫を廊下に置くことや、材料を置くことで、目に入って意識付けに繋がると考えている。展示などを含めて回答しているので、実際の発表は多目的室など広いスペースで行っている。	生活
13	生活科の中で近隣の幼稚園や保育園と連携することはある。秋のお祭りとしてどんぐりで何かを作り、そこにお客さんとして来てもらう。一緒にゲームをする、ランドセルを背負わせてあげることもある。普通教室や多目的室を使っている。	生活
14	学年などで図書室や図書館から本を借りて手に取りやすい身近なスペースにおくことがある。図書室とコンピュータ室が隣り合っていることは必要である。はるひ野は授業中が他学年の休み時間で読書の時間で本を読むことがあった。4年生と5年生で1コマの授業時数が異なっていたので、授業中に図書室に他学年の子どもが来てしまうことがあったので、調べ学習を行うスペースがあるとよかった。パソコンで調べてもそれだけを信じては不十分と指導している。物事を複眼的に、多面的に考えることが大事である。調べる、まとめる活動を繰り返すことが必要である。	総合
15	特別教室については、空いていれば使用することもある。実験的なものであれば理科室を使うことになる。調理や食に関するものであれば家庭科室を使うことになる。内容が決まっていないので、内容に応じて使用する部屋が変わってくる。誰に発表するか、目的意識を持って行うので、ある程度の人数に対して行うのであればステージのようなものが必要になることもあると思う。子どもたちにとっては調べて、話し合い、発表するという活動はやりがい、達成感があると思う。また今後、プレゼンする力が求められていると思う。国語など他の教科で身に付けた技能を活用、探究をしていくものである。	総合
16	道徳の時間は基本的に週1時間。小学校1年生が年間34時間で、2年生以上が35時間。週1時間の授業は基本的に教室で行う。授業の進め方としては、導入、展開、終末というように分かれている。展開の部分で読み物資料を使う。副読本の中に2～3ページのお話があり、その登場人物の気持ちを考えるなかで、今日の狙いについて考える。その後、自分の生活について振り返る。	道徳
17	導入と終末の部分では、お話の内容に関わるようなことを行うこともある。例えば、外国の話であれば教室に掛け軸を掛けて、どこの国のことか指し示すような導入の仕方をする。終末の部分では、愛校心を育てるために校歌を歌って終わることもある。	道徳
18	市内の学校では、各階の多目的ホールに校歌をイメージした壁画があり、実際にその場に行って授業を行うこともあった。基本的には教室で授業を行うが、話の内容、教える内容によって場を変えることもある。	道徳
19	話し合いの中で考えを深めていくことが多いので、どこかに行って調べ学習を行うことはない。	道徳

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
20	ねらいに迫るために自分の考えを表現していくので、そこからずれた考えでなければ、子どもたちが育ってきた生活経験等によって色々な意見が出てきてよい。そこで話し合っている中で相手と意見が同じであれば、やっぱり間違っていなかったと思うこともあるし、違う意見を聞くことで一つの道徳の価値について色々な考え方があることを知ることができる。	道徳
21	副読本は必ず備えなければいけないわけではないが、資料は必ず学校が用意する（絵本等）。ただし、学校独自でねらいや価値にあった資料を揃えるのはかなり困難なので、副読本を使うのが川崎では一般的。道徳には教科書はない。	道徳
22	授業中の机の配置は色々。お話の場面絵を紙芝居のようにして、授業をする教員もいる。その場合、後ろからだが見えないので、机をどけて前の方に児童を扇形に集めてお話をする。話し合いの形としてはコの字型も多い。ディベート的（ディベートではない）な話し合いをさせたい場合は、机を両側に寄せて向かい合わせるような形で行うこともある。	道徳
23	新学習指導要領では表現、鑑賞とあるが、表現とは絵や立体、工作で表す活動と造形遊び。絵や立体、工作で表す活動とは、主題を生成してそれを元に発想、構想して表現するという表現領域。造形遊びとは、材料や場所から発想、構想して表現に向かう活動。遊びの中から造形的な表現活動に向かっていく。作品にすることが目的ではなく、作品になることもあるし、作品にならないこともある。造形活動を通して、発想・構想の能力、創造的な技能を発揮させる。	図工
24	指導要領では、低学年が週に2時間、中学年が1.7時間、高学年が1.4時間行うことになっているが、中高学年も2時間連続で運用している。1時間の中では準備から片づけまでやりきれない。そのため、図工のない月、週も考えられる。	図工
25	1つの題材に係る時間は、高学年になるほど長くなる。低学年は2時間から4時間程度。遅れている子、凝ったものを作る子は、時間内に終わらなければ休み時間等、授業時間外を使って行う。	図工
26	造形遊びは材料や場と関わって表現するので、低学年でグラウンド、砂場等を使っている。これを特別教室や廊下や遊具等を使って展開することもできる。大きな紙を広げてグループで展開するような表現は廊下、図工室、体育館を使うことも考えられる。6年生も環境との関わりの中での造形遊びの活動がある。そのような活動では床を使うこともある。	図工
27	調べ学習とは、例えば馬の絵を描きたいと思った児童が、図書室で馬の図鑑を調べてくること等。	図工
28	話し合いとは、言語活動の充実や学びあいの一貫として、製作に入る前にグループになってお互いのアイディアを話し合うことや、製作後の鑑賞活動の中で、受けた印象や作者の意図について発言をさせること。	図工
29	感想や鑑賞の時間がなければ授業ではない。作品を作ることが目的ではなく、それを通して発想、構想能力、創造的スキル、鑑賞能力を身に付けることが目的。作品を通して、どんなことを学んだのか、どんな感想を持ったのか、どんな気持ちでその作品を作ろうとしたのかをお互いに知る時間を必ずとる。	図工
30	発達段階に応じて同じ題材でも目的が違うので内容が変わってくる。例えば、低学年では運動会やなし狩りの絵を描こうというのが、高学年になると学校生活の中で心に残ったでき事を描いてみようというようになってくる。	図工
31	通常は週1回学級活動を行っているが、学芸会等で6時間通して行う場合もある。そのような場合、学校の裁量で道徳や総合の時間を使ってコラボしながら1日の流れを組んでいく。全ての活動を特別活動の時間だけでできるわけではない。	特別
32	週1回の学級活動は基本的に行っている。	特別
33	学習指導要領における学級会活動1とは、教員が主導ではなく子どもたちが主体的に話し合い、自治的に決める活動のこと。学級会活動2とは、教師主導で行う指導的なこと（給食の食べ方、掃除の仕方、冬休み前の過ごし方、熱中症予防等）で、発達の段階に応じて大人が教えなければいけないこと。	特別
34	学習指導要領における学級会活動1では、子どもたちの生活に関わることを子ども達自身が話し合う。学校によって学級会活動で使っている場所の枠組み（体育館等）があるが、学校の規模や施設によってはどこでも活動場所になりうる。話し合いは主にクラスで行われる。	特別
35	例えば係りの運営の仕方や、誕生日会等クラスのイベントごとが話し合いの対象になる。	特別

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
36	学習指導要領における学級活動1と2の割合は学校や児童の現状によって変わってくる。民主的なクラスや自治的な能力の高いクラスでは学級活動1の話し合いの割合が高くなる。基本的に川崎市は話し合いによる学級活動を目指している。	特別
37	高学年になってくると、後輩達の見本になるため自分たちがどうリーダーシップをとって行ったらいいかを考えるために5、6年生では委員会活動がある。委員会活動は児童会活動の中に位置づけられる。児童会活動の中に委員会活動があり、委員会活動を充実させるために学級会活動で話し合いがもたれることもある。高学年になると学級会活動の中で委員会について話し合うのが特徴。委員会活動の中でも話し合われるが、学級会活動で話し合ったことも委員会に下ろしていく。	特別
38	委員会活動については、安全面等最低限の指導はするが、できるだけ生徒の自主性に任せて運営されていくのが理想的。	特別
39	運動会を通してどのような子どもに育てたいかという目標が学校ごとにある。それを実現するためにどのように行うかを子ども達に話し合いをさせる。学校のめざす子ども像にもとづき高学年がリードしていく。	特別
40	委員会活動で目指していることをどうすれば実現するか学級活動で話し合う。例えば、学校全体に広めるために新聞を配ることや、本の貸出の仕方を掲示するなどの動きがあると、委員会活動も活性化してくる。	特別
41	児童会活動においては委員会活動がメインとなる。児童会会長がいてその下に書記等の役職がある所もあるし、それぞれの委員会の委員長が集まって合議制で決めていることもある。	特別
42	小学校の委員会活動は飼育委員会や図書委員会等、学校生活の中で必要なことについて委員会がある。学校によって違う。小学校の特徴はその委員会をやりたい子が何人いてもいい。中学校の場合は定員が決まっている。	特別
43	縦割り活動は学校によって、クラスごとの縦割りグループを作る場合やクラスから出席番号等で一人ずつ取り出して、12人を単位としたグループを組む場合もある。	特別
44	学校行事への委員会参加は、例えば体育祭の準備を体育委員が行うことや、文化祭等で合唱をする時に音楽委員や合唱委員が召集されること等が考えられる。	特別
45	クラブ活動は4年生以上。クラスは全部取り払う。子どもたちからやりたいクラブを募集する場合もあるし、指導者がこういうクラブがあると提示して、そこに子ども達が希望を出す場合もある。クラブ活動は年間10回～20回。年間計画の中に前もって位置づけている。	特別
46	学校行事は全校または学年という大きな集団を単位として行われる活動。文化的行事は平素の学習活動の成果を発表し、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動のこと。年に1回学校全体で行う。健康安全体育的行事は心身の健全な発達や健康保持増進などについて関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成をはかるような活動。遠足、集団的行事は自然教室や遠足。勤労生産奉仕的行事とは、ボランティア活動や日常清掃のこと。活動としては学校行事として位置づけてよい。	特別
47	学級会活動と学級の係活動は連動していない。学級の係活動はクラスごとでそのクラスが今必要としていることがクラスの係になる。例えば黒板消し係、物を配る係、植物係、レクリエーション係、新聞係、号令係等。	特別
48	委員会活動の話し合いの場は各教室に分かれている。普通教室で行う委員会もあるが実際の活動場所は外に出る委員会もある。(環境委員会等)	特別
49	音、臭い、火を使うような実験や野外活動、顕微鏡を用いた観察は高学年の各学年30時間くらい行われている。それに合わせて理科支援員の派遣を行っている。火を使う実験、薬品を使う実験、顕微鏡を使う場合は理科室で行うことになる。顕微鏡については、少なくとも2人で1台使用するので、コンセントを含めて電気容量の確保が必要となる。4年生でも顕微鏡を使う場合は理科室を使用することになる。	理科
50	一斉説明を学年単位で行うものとして、近くの広場で昆虫を採取すること等がある。一度、体育館に集合して説明を行い、屋外に出て採取などを行い、また体育館に戻ることがあるので、体育館のところに印を付けている。その他、収穫作業なども学年で行うことがある。	理科

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
51	クラス単位で体育館を使うものとして、風を利用したおもちゃを走らせる実験を行う場合に距離が必要となるので、体育館や廊下などを使用している。おもちゃは子どもたちが製作したものであり、その一環として体育館や多目的室で一斉説明を行うことがある。多目的室については、発表活動を使うことが多いと思う。学年で発表を行うこともあるが少ない。希望としては学年でも発表を行う活動があることが望ましいと思っている。	理科
52	話し合いはクラスをベースとしてグループ単位で行うことが多い。高学年は必要に応じて理科室を使っている。調べ学習は図書室やコンピュータ室、理科室を使用している。理科室で行う調べ学習としては、LANがあればパソコンを使用する、植物や昆虫の本を子どもの人数に合わせて用意していることもあるので、理科室で採取した昆虫などを調べることがある。	理科
53	理科室で問題演習を行うものとして、実験を行った流れで行う場合を想定している。問題演習等については、普通教室でも実施できるものだが、理科室を使用できるのであれば普通教室に戻らずに理科室で行うことになる。	理科
54	製作としては、中学年では風で動く、ゴムで動くおもちゃを作っている。高学年では電磁石を使った生活に役立つおもちゃ、電気をつかって蓋が開閉するおもちゃ等を作っていることがある。個人ではなくグループで製作を行うと時間がかかる。	理科
55	実習活動で学年を単位として行うものとして、あまり事例は無いが、大がかりの活動、学校園での観察や収穫活動など一部の学校で行われているので印を付けている。全校で年数回行われているものではない。	理科
56	栽培・飼育として、種を植えて育て、また種ができるという流れを理解する中で花の仕組み、葉の光合成を扱っている。飼育小屋は無い学校もあるので、それを使って理科の活動を行っていることは少ない。飼育小屋は委員会活動で使用していることが多い。理科の飼育はメダカである。栽培は花の咲く植物が多い。ピオトープがあれば活用していることもある。ピオトープの維持管理にあたっては、理科支援員と一緒にやっている。	理科
57	普通教室でできるものはあっても理科室で行うことが望ましいと思う。高学年では教科教室的な使い方もよいと思う。問題としては、時間の区切りとして3時間目に理科室で授業を行っている中で新たな疑問が出て4時間目の授業に食い込むことがある。この場合に4時間目に他のクラスが理科室を使用することになっていけば場所を空けなければならなくなる。中学校では教科担任制なので時間で授業を区切るが、小学校では起こりうる問題である。1・2時間目、3・4時間目は休み時間は無く、チャイムも鳴らないので、連続して授業を行ってしまうことがよくある。そのようなことを考えると普通教室で行うメリットがある。	理科
58	単元の構成として、川崎市ではALTのいる日に外国活動を行っている。担任とALTで授業を進めているが、教室で机を寄せて授業を行っている。外国語活動に力を入れている学校では、多目的室など動きやすいスペースで授業を行っている。多くの学校は普通教室で授業を行っている。単元については、3～4時間で構成されていて、7～8のレッスンをやっているの、1ヶ月で1つのレッスンをやっている。最初は聞く活動、ペアで話をし、最後にグループで発表やスピーチを行っている。発表などは多目的など広いスペースで行うこともある。机で道を作り体育館で道案内を英語で行っている。単元にあわせた環境を作っている。	外国語活動
59	4時間掛ける単元を5時間行うなどして、実質、各学校では35時間程度の授業を行っている。	外国語活動

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
60	今後、中学年に外国語活動が将来的に実施された時に、高学年は教科化される可能性が考えられ、その時には授業時数が多くなることになる。特別教室は外国語教室専用の部屋を想定したもので、中学年で週1回授業をする場合には使用することになると思う。高学年で英語として教科化された時には週3回授業を行うことが考えられ、例えば学年で5クラスあると1つの特別教室では常に授業を行うことは難しいので、普通教室を使用することになると思う。そうすると外国語活動の部屋は中学年で使用することになる。高学年も機会があれば利用することになる。	外国語活動
61	国において中学年の外国語活動について検討を行っており、検討中であれば導入されることになる。実際、低学年、中学年でも余剰時間を使って外国語活動を行っている。学校によって持ち時数が異なるので、年間で6時間の学校や、15時間以上行っている学校もあり差がある。一部行っていない学校もあるが、ほとんどの学校で行われている。	外国語活動
62	劇に関して衣装を作る学校もあるが、擬似的にお面だけ作るなど担任の裁量で行われている。製作活動として、単元にクリスマスカード作り、アルファベットカード作りがある。作ることが目的ではないが、作ったものを使って言語活動を行っている。	外国語活動
63	低学年から調べる活動は行っている。低学年であれば易しい図鑑、植物や昆虫や動物が掲載されている図鑑は今までも使っている。低学年でも話し合う活動を行っていて、身に付けなければならない力として学習を行っている。ペアやグループ、学級全体で段階を踏んで行っている。中学年以上になると役割を意識した話し合いを行っていて、司会など自分がどのような立場で話し合いに参加しているのかということや学んでいる。高学年になると協議や討論などを行っている。学習指導要領の解説には座談会、パネルディスカッションという形式も例として示している。ある程度の話し合いを小学校で経験することとしている。学習指導要領において、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」、書写については、目安となる時数が示されていて、「読むこと」だけは示されていない。	国語
64	一人で音読を行うような活動は常にある。一人で練習して友達に聞いてもらい、皆で声を合わせて行う活動はある。	国語
65	1つの授業の中で、言語活動としては1時間の中に書いたり読んだりバランスよく入っている方が子どもにとって集中力が続く一般的な言われているが、国語の能力を身に付けるためにこの単元では「書くこと」のように重点を置いて指導していく。但し、ずっと書いているのではなく、友達と交換して意見交換する。外に出て取材に行く、図書室に行くこともある。	国語
66	個人で音読するだけでなく、グループで音読することもある。皆で1つの物語を劇風に音読する場合には、役割分担を工夫して発表する事もあるので、1人で行うだけでなく、友達と一緒に話し合いながら行う事もある。	国語
67	目的に応じて、ある程度の活動場所を保障しなければならない。発表の練習をする場合で、自分の姿を見られないので、それを振り返る時にはデジカメの動画機能を使うこともある。音が混じる、周りが雑然としていると理想的な学習環境にはならない。普通教室の近くに少人数やグループで活動することができるスペースがあるとありがたい。普通教室の中で、皆で話し合っ考える場面と自分の課題を追求する場面がないと、1人1人の学びが繋がっていかないので、そのような仕組みを用意しておく必要がある。	国語
68	表現を伴うものについては、音が混じらない環境を用意した方がよい。音読をする力を身に付けるために行う音読と書いてあることを理解するために行う音読がある。理解したことを自分なりに解釈し、表現性を高めていく朗読もある。話し合うといっても普通教室で話し合うことができないことはないが、分けた方がよいと思う。場があれば発想が広がると思う。本当は音が混じり合わないところで授業ができればよいという教員は多いと思う。	国語
69	宮前小にいたので、オープンを経験している。解放感があってよいと思うが、隣で音楽の授業が行われると音が気になり大変である。但し、音が漏れることは慣れているので、教室からはみ出す活動も当たり前だと思っている。グループの活動を許可すると自分たちで座卓を広げて活動をすすめるようになる。	国語

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
70	算数の単元として、単元によって何十時間と行うことがある。数と計算領域、量と測定領域など4領域が入り混じって進めている。教科書の構成も同様で1年生は1冊だが、2年生から2冊使用している。	算数
71	4年生で2分の1足す3分の1の計算を行うことがあり、以前であれば通分して計算するように教えていたと思うが、2分の1足す3分の1の計算を行うにはどうしたらよいかと教員が発問をして、分母が違うと子どもたちがつぶやきどうしたらよいか考える、図で考えるか式で考えるか教員が投げかける、図で考える子、式で考える子、数直線で考える子など様々な子どもがいて答えを出して共通した考えを出す、実際に計算するとどのようになるかなど子どもたちが発見する、気付くというものが課題解決型の学習である。その時に一斉やグループ、自分で考える場面がある。子どもは繰り返し学習することで、算数の授業はこのようなものだと理解してくる。	算数
72	台形の面積を求める場合、上底×下底×高さ÷2という公式があったが、台形の面積はどのようにすれば出せるか今まで学んだことを生かして考えさせる。平行四辺形の面積は、三角形の面積はどのようにしたかなど自分たちの知識を生かして課題を解決していく学習を行っているので、その中で自分の考えを伝えることや相手の考えを聞くことを通して言語活動が充実してくる。グループや個人で考えさせている。多くは個人思考の集団があり、小集団があり、全体でまとめるということの繰り返しである。低学年では学習も難しくないなので、活動する場面が多い。量と測定の領域ではモノの長さを比べる単元があり、ペアで長さを比べるためにはどのようにしたらよいか、粘土で作ったもので比較する（直接比較）、隣のクラスの子と比べるためには粘土を持っていくことができないかどのようにしたらよいか、消しゴムで〇個分として比べればできる、でも消しゴムの大きさは人によって違う、そこで定規があることを教員が示すと定規の必要性が増してくる。子どもたちは不便さを感じながら段々便利になってくるので、定規の便利さが体感できる。	算数
73	普通教室では誰かが前に出て説明をしている時には子どもたちに前に集まってもらう場面が算数の授業形態としてある。製作する活動もある。3年生の量と測定領域で重さを調べる単元があり、自分天秤を作るという教員もいる。最初、子どもたちはどちらが重いかわかることができないので不便さを感じる。右と左でどちらが重いかわかるように調べてみる、それなら自分で調べられるように天秤を作ってみることがある。教員がクラスの中でどれが重いかわかる、何回も計らなければいけないか、そこでこれより重いかわかるかという1つの基準を決める。知らない人と重さを比べるにはどのようにしたらよいかと教員が投げかけ皆が悩んでいる時にグラムという普遍単位を説明することで便利さを体感し、重さの概念を知ることができる。	算数
74	理科や図工で作ったものを算数で活用することもできる。方法については教員によってバラバラである。クラスで個別を単位として製作することは、低学年である。1年生の図形領域で身の回りにあるものの形を三角、四角、丸の形を持ってきて分けてみようという単元がある。製作するかどうかは内容によると思う。	算数
75	実感として理解で無ければ使うことができないという考えで授業を行っている。単元の導入部分で実感させるような課題解決の授業を行うことが多くある。算数の特徴として一般化抽象化である。思考としては具体的ものを抽象化するので、抽象化しているものを具体化することは無い。具体的なものの便利さを体感して抽象化していくという流れで授業を行っているので、単元の最初は具体物が多くなる。	算数
76	調べる活動として、社会や総合のような調べ学習を行うことは無い。移動も無く、普通教室だけで授業を行っている。4年生の図形領域の面積の単位として平方センチメートルを実感させるために1平方センチメートルの新聞紙を体育館に敷き詰めるという教員もいるが、少ない。アンケートで体育館に印を付けているのはこのような事例である。多くは多目的室で1平方センチメートルの新聞紙に何人の子どもたち乗ることができるかというものを行うことで体感させている。算数は究極的には1人で考えて課題解決をするものである、言語活動の充実としてコミュニケーション能力を高めようと言っているが、算数においては自分の考えを深めていくことが大事である。集団やグループで活動しても自分が理解しているか、振り返ることが大切である。	算数

参考4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
77	グループで何時間かかけて迫及していく単元が他の教科であるかもしれないが、算数に関して単元に連続性はあるが、ここまで分かっていたらよいというものである。次の授業に繋がっていくこともあるが、内容としては1時間の授業で課題の提示・展開・まとめの流れを行っている。そうしなければ、子どもは何が分かるようになったか分からない。例えば分数の大きさ比べであれば、分子が同じだが分母が違うということを学ぶとその問題に関しては解決できるようになる。次は、分母は同じだが分子は違うというものを学び、解決していく。次は通分が出てくる、分母と分子が違う時にはどのようにするかというような形で単元の中で授業の繋がりはあるが、1つの授業では解決が積み重なっていくものである。	算数
78	少人数と取り出しが多いのは算数の特徴である。算数を教える上での教員の悩みは学力差である。できたかできないかが目に見えて分かってしまうので、取り出し支援を行うことが多い(全学年)。少人数を行うのは中学年が多い。高学年は一斉の授業が多い。5年生で内容が難しくなるので、その前に授業の進度(理解度)を調整している。数と計算領域の基本的なものを中学年で学ぶので、そこが分からなければ5年生の分数の計算ができない。九九ができない子どもに割り算を教えることはできない。	算数
79	屋外を使う活動としては木の幹を測定するなど巻尺を使って計る活動である。木の周りを計る場合に、定規で測れないことを体感し、そこで巻尺を渡す。巻尺はクラス単位で行っている。ほとんどクラス単位で活動をしている。特別教室を使うものとして、体積の授業でどちらの水筒に沢山水が入るか調べることがあり、教室では水浸しになるので理科室を使うことがあるというものである。高学年になると理科室など特別教室を使うことが無くなっていくのは、高学年になるとより抽象化し、一般化されていくので、自分の考える場面が多くなる。	算数
80	廊下を活動場所とすることは無い。グループごとのスペースが広ければ子どもはやりやすいかもしれないが、実際に使うことは無いと思う。図書室やコンピュータ室などを使った調べ学習は無いが、統計データで使用することはあるかもしれない(高学年で統計資料を分析することがあり、今後増える可能性がある)。算数に関しては分類に合わない部分がある。活動場所として、基本は教室だが少人数が学級を行う上で少人数教室を使うことがあるというものである。教員によって異なるが、空いていれば多目的室や特別教室を使用することがあるという程度である。使用する部屋によって特別効果が高まるものは無い。	算数
81	歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の割合は、適正にカリキュラムの中で定めている。鑑賞と表現の関連が学習指導要領の中で定められ、身に付けたい方のために鑑賞があり、歌を歌う活動があつて混在している。1時間の中で表現だけという場合もあるが、望ましい学習のありようとしては混在していることがある。「音楽を聴いてリズムが細かいとウキウキした感じになる。」など今、学んでいる曲はどちらか考えさせる。そして、その曲想の感じを表現するには、音は長い方がいいか、短い方がいいか話し合せて考え、短い方が良ければタンギングを教える。常に考えて表現することを大切にしているのが音楽の授業である。	音楽
82	歌唱、器楽、音遊び、音楽づくり、鑑賞などあり、鑑賞の後に音楽づくりを行う事もある。それは全学年同じである。音楽におけるグループ活動として、例えば「ふるさと」を歌う時に、まず全体で歌ってみる、「3段目はどのように歌ったらいいか考えてみよう。」と投げかけ、グループに分かれて意見をまとめてみるなど、試しながら進めている。小部屋に分かれて、歌い方を話し合せてその内容をグループ全体で発表をし、表現を共有して音楽を進めている。合唱でも行っている。クラス単位で行っているが、グループで別の部屋に分かれて行うことが望ましい。特に合奏を行う時は、他のグループの音が聞こえて大変である。そのような時は廊下、準備室、音楽室の近くの普通教室を使用している。大きな音楽室であれば、前後で2グループ作る事もできるが、音は大きくなって大変である。ガラス張りの小部屋があることが望ましい。	音楽
83	低学年は曲の気分を感じ取ることが大事である。適切に気分を感じ取ること、表現力、鑑賞する力が伸びると言われている。低学年では言葉では表出できないので、動きを伴った活動を取り入れる。大人になれば「3拍子が揺れる心の動きを表している」という言葉による表現ができるかもしれないが、低学年はできない。音楽に合わせて動いてみる、曲想が変わったところで動いてみる、付点のリズムがあればスキップしてみるなどリトミックを取り入れている。2拍子と3拍子のちがいが言葉ではなく体感することが必要だと考えている。	音楽
84	音楽は1つの題材で10時間以内が妥当であると言われている(事例集参照)。	音楽

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
85	一番大事にしているのは、感じることだと伝えたが、それを子どもが主体となって「段々膨らむ感じがするクレッシェンドがよいのでは、どのくらいクレッシェンドをかけようか相談してみよう」等この流れが表現の工夫である。最終的には個のレベルで評価するが、その抛り所がグループで意見交換するというものである。言語活動の充実は言葉だけではダメである。「トンネルから出たみたいに膨らませよう」など素晴らしい言語表現をできたとしてもそれは国語の能力であり、クレッシェンドを適切にできるというものではない。実際に音ととして表出することができなければならないので、実際に試しながら行ってみるという活動が入ってくる。その時にうるさい環境だと上手くいかない。	音楽
86	通常、音楽室は小学校に1教室で、低学年は普通教室で行い、中学年以上は音楽室で行っている。グループ活動が1授業の中で展開されている。歌を歌えるまでには10時間くらいかかる。1つの題材の中で焦点化して身に付けさせたい力があり、そのために曲を選んで配置している。何曲も歌う事もあり、1つの題材の中で器楽と歌唱と鑑賞と音楽づくりが位置付けられている。	音楽
87	中学年、高学年では1つの授業でも約10時間という1つの題材の中でグループになり、試して表現の工夫をする活動を行っていることが特徴である。音はうるさくないが教員が見えているようにしたい。お互いの活動が見えていることは構わないが、邪魔になるほど聞こえるのは集中できない。何をしているか聞こえるくらいはよい。中学生になると発達して集中できるようになり、自分の必要とする音が選べる力が高まる。同じ音楽室で四隅に分かれていてもグループ活動の授業を行うことができる。発達に障害があって教員の話していることだけでなく、周りのお友達のことでも聞こえて集中できなくなる児童生徒がいるが、低学年でも発達が十分ではないので、直ぐに集中できなくなる。	音楽

イ. 発表活動に関する意見

No.	ヒアリング意見	教科
1	発表活動は相手が行うものなのでクラスの友達に対して、学校公開日に保護者の方に対して、地域の方に対してなど発表する相手方によって必要となる広さが異なってくる。相手を意識することが大事である。地域に飛び出して学習する場合、地域の方を招いて発表をする場があると学習の目的がはっきりしてくるので、そのためのスペースがあるとよい。発表自体は年数回行っている。	社会
2	発表する場所として、普通教室の近くなど身近な場所に小ホールになるようなスペースがあれば教員は使うと思う。但し、教員によっては階段状のものは無い方がよいと考えるかもしれない。活動の中身によるが、平の広いスペースがあればよいと考える人もいるかもしれない。	社会
3	発表は度合いによって異なり、毎時間行うこともある。発表会のようなものは年1回程度である。課題設定・追究活動、話し合い、発表は日常の授業で行われている。問題解決的な学習が家庭科のベースである。	家庭
4	発表については、授業の展開のさせ方次第だが、グループで話し合いをした結果どういう意見が出たか教えてもらうことや、最初からコの字型に机を並べてみんなで意見を出し合っていくこともある。	道徳
5	発表もグループ単位で行うか個人で行うかの違いはあるが、基本的にはクラスで行う。	図工
6	発表は基本的に教室だが、体育館で動くおもちゃをみんなで動かしながら作ることや、鑑賞することも考えられる。すずらんテープを張り巡らせて造形遊びをすることや、大きな模造紙をつなげて人体の方をとりそれに色をつける等の活動もある。	図工
7	発表はクラスをベースとしてグループでの活動が多く、個人で調べ学習を行うこともあるが、あまり事例は無いと思う。個人であれば夏休みの自由研究を発表することを想定したものは該当する。発表については、基本的には普通教室で行い、空いていれば多目的室や理科室（理科室で無ければできない実験を除き）で行うことになる。	理科
8	英語で話し合いは行わないが、今まで学んできたことを生かして劇を行うことがあり、それを発表としてアンケートは回答している。	外国語活動
9	発表の活動場所として、階段状のスペースは必要としていない。使う側の意識だが、使おうとしなければ使わない。	外国語活動

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
10	発表の目的として、お互いが見合うということがあれば模造紙で掲示することもある。グループの活動が見ることができなかった時に期間をおいて見られるようにし、自分たちに無いものがどのようなものがあるか、気づきを促している。常にある事ではない。	国語
11	学年同士で学んだこと、学習した成果を発表することは無いと思う。	算数

ウ. 活動単位・活動形態に関する意見

No.	ヒアリング意見	教科
1	活動形態としてはグループ、個別活動を臨機応変に使っている。従来からこのような活動はあったが、言語活動の充実というキーワードがあり、教室の話し合い活動に軸足を置いた授業が多くなっている。話し合ったことを基に表現を行い、まとめるためにグループで集まることが増えてくると思う。今は話し合いに目を向けているが、それがゴールでは無いと説明している。学力差を埋めるためにグループ活動を入れることがある。	社会
2	話し合い、調べ学習などを行う場合、普通教室で行うことが多い。グループは4人で活動することがトレンドである。一人ひとりの意見を出しやすい。40人が4人だと10組になり騒がしくなるので、教室の外の廊下などのスペースにはみ出して活動を行うことがある。連続したスペースがあると使うことになると思う。但し、担任の教員にとって目が行き届くよう教員の動線も配慮して欲しい。子どもたちも落ち着いて活動できると思う。	社会
3	社会科に関してはどの学年であっても活動形態は変わらない。基本的な学習活動は変わらない。	社会
4	画像紙や模造紙を使うと机では手狭だが、児童の机の高さが揃っていないので、模造紙を広げて書く活動は難しく、床や廊下を使うことがある。	社会
5	常時話し合い、調べ学習、発表が行われている。初めから教員が正面で説明して終わることは少ない。話し合いを軸に授業をする教員であれば最初からコの字にして授業をしている教員もいる。	社会
6	活動が大きく、教室が手狭になっていることが分かれば特別教室を最初から使用することがある。広いスペースがある多目的室を使うことが多い。図書室を使うことはあるが、自分で情報を探すことを狙いにする場合、たくさんある本の中から必要な情報を探すことを学べるようにさせることがある。コンピュータ室も同様である。子どもたちが情報を集めるのであれば必要なものである。調べたものを持ち寄ってまとめるのであれば、コンピュータ室の床で模造紙を広げることがある。コンピュータ室はパーソナルな空間であるが、相談や情報交換して調べるなど入り乱れて行うことがある。	社会
7	話し合い、調べ学習、発表は普通教室の中でも自然に学習形態を変えながら行っている。	社会
8	クラスが基本であるが、成果を発表する場合は学年で活動することもある。屋外に出る時には1人では見切れないので、学年で活動することもある。低学年のフロアに生活科室があれば、他の教科でも使うと思う。	生活
9	グループで話し合えるスペースがあるとよい。大人にとってどのような場があると話し合いが短時間で活性化するかを考えるものと同じである。大きなものが貼れて話し合える場や移動式のホワイトボードを子どもがよく使っていた。	総合
10	学年による学習形態の違いは特に無い。高学年になると課題の設定のさせ方、持っている課題が個人に重きを置いている。グループが基本で話し合う、調べる、発表するという活動である。総合は探究的、協働的な活動がキーワードである。情報を集めて整理分析、吟味してまとめて表現・発表する活動を行っている。高学年でも階段状のスペースがあってもあまり使わない。発表の仕方がワークショップ、パネルディスカッション、シンポジウムなどあるがフラットなスペースがあれば対応できる。	総合
11	基本的には教室の中で完結できるように授業を行う。声がうるさいから等の理由で教室からはみ出して外でグループ活動を行うことはない。声がうるさいのであれば、周りに対する配慮も道徳教育の一貫として学ばせなければならない。	道徳

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
12	発達の段階に応じた授業形態の大きな特徴の差はない。	道徳
13	グループで共同して作品を作る場合もあれば、グループになって個人の作品を作ることもある。一人1作品が基本。最終的には個の学びに結びつかなければ意味がないので、共同製作をしても最後には自分が何を学んだのか、発見できたのか、どんな感想を持ったのかというまとめの時間を設けている。	図工
14	ほとんどクラス単位での活動だが、造形遊びをグラウンドで一斉展開をする場合等は学年全体で活動することも可能性としては考えられる。	図工
15	グループで活動は4人を単位とし、机をくっつけて広く使うことがある。全員が前を向いた一斉授業の形もある。	図工
16	学年によって授業形態は変わらない。	図工
17	高学年でも教室での活動が主体。時間の確保、保管のしやすさ、移動の手間等のデメリットがある。一つの題材について、最初は教室で行い、図工室でできない部分は図工室で行う可能性もある。	図工
18	理科においてはグループ単位で授業を行うことが多くあり、普通教室では中学年くらいから机の高さが異なっているため、4人で机を並べた時に広いスペースを作ることができないことが問題である。フラットな場が必要となる。社会科でも模造紙などで作業をする時には同じ問題があると思う。そうなると広いスペースのある多目的室を使用しなければ実施できなくなり、プラス実験を行うのであれば理科室で行わなくてもよい実験であっても理科室が空いていれば利用することになる。理科支援員が必要となる実験としてどのようなものがあるかという視点でまとめた資料があるので、情報提供する。	理科
19	普通教室ではグループ活動が多いので、机で島を作ることが多い。道徳のように全体で話合う先進的な取り組みは無いので、グループ単位で行うことが多い。教員の位置づけは基本的には司会者として意見を吸い上げて戻すことになるので、理科では前（黒板が見えるような配置）が多い。	理科
20	学年で行う活動として、ALTと一緒に道案内やお店ごっこを行うことがあり、2クラスくらいであれば一緒に行うことができるが、3クラス以上は人数が多く実施できない。旅行の場面で入国管理を体験していることもある。	外国語活動
21	学年で行う活動として、単元によって無いとは言い切れないが、行くとすれば音読や朗読になると思う。常に行っているものではなく、事例はあまり無い。	国語
22	クラスを基本にグループを作って発表することがある。皆さんの前で行う場合、代表グループは学校全体で報告を行う事もある。体育館は大規模な学習発表会、報告会を行うことがある。特別教室としては、図書室、コンピュータ室、多目的室など目的に応じて使用している。人数をどのように分散させるかバランスを考慮していて、形態としていくつかの特別教室を借りる方が良ければ使用している。家庭科の発表をする訳ではないが、家庭科室を使う事もあり、より目的に応じて部屋を使用できればよいと思う。	国語
23	グループの単位として、たくさん話すには3~4人が適切である。グループ活動をするのは自分で何かを考え相手に伝える時間が一斉だと少なくなってしまう。発言する人が少なくなってしまうので、小グループにして一生懸命考える、相手に伝える、聞く時間を増やしたいという考えからグループの形態を取ることが多い。そうしなければ、いつも誰かが話している、いつも自分は聞いていることになるかと能力が身に付かない。自分が能動的に授業に参加するためには小分けにするしか無い。そこで自分の考えを伝えることで考えを深める事や、教員が見回る中で子どもの良さを確認することができ、意図的にその児童に発言させる事もある。チャンスを増やすためには、1人1人が考え、話し、聞くことをなるべく増やすという考えからグループで学習活動を行っている。	国語
24	机の向きを変える事については、予め訓練しておき、直ぐに対応できるようにしておかなければ時間が無くなってしまう。国語における単元は、1時間で終わってしまうものから12時間、9時間など領域によって、扱うものによって様々である。1つの単元では読むことなど1つの事しか行わない。そうしなければ何をしていたのか分からなくなってしまう。	国語

参考 4. 打合せ・視察記録

No.	ヒアリング意見	教科
25	音読や話すこと・聞くことなど、2人の話し合いから始まって4人のグループ、クラスで話し合う形、誰かに聞きたいことを聞いていく学習もあるので、外部の人を招いて話を聞く学習があれば4人グループに1人の外部人材が入るとなると広いスペースが必要となる。子ども同士で話しが変わっていく学習を行う時にも、いつも前で話して聞くだけでなく、グループに分かれて練習を行う事や、発表に対するアドバイスを受けるなど話し合い活動を行う場合に分かれて行うので、普通教室しか無ければ場所探しが大変である。場所を小分けにできるとよい。	国語
26	学年による活動の違いは無い。	国語
27	低学年は、考える場面では隣同士のペア学習が多い。4人などグループで活動はできないので、隣同士で確認することはある。中学年からはグループで活動するなら4人で構成する。イメージとしては教員が前にいて一斉授業形式を行うことはあるが、課題解決学習になって来ているので、その日に考える課題を教員が示し、どう思うかなどやり取りを行いながら子どもたちが解決することを引き出し考えていこうとする授業スタイルが多い。	算数
28	グループに分かれる時は1クラス4グループに分かれる(1グループ10人程度)で活動を行うことが多い。グループに分かれるのは低学年より高学年が多い。低学年は一斉が多い。内容もリズムに乗れているかなど平易なものだが、高学年になるとこの部分の歌い方をどのようにしたらよいかというようなものになってしまう。他のグループの音が聞こえると難しくなる。中学年から合奏と合唱を行っている。低学年もあるが、輪唱などをすることが多い。2つガラス張りの部屋があるとグループ活動が担保できる。	音楽

エ. グループ活動など広さを必要とする活動に関する意見

No.	ヒアリング意見	教科
1	4人～6人などのグループで模造紙を使って資料を作成する場合に床で行うことになるので、子どもたちから廊下などを使いたいという声があれば使用することがある。	社会
2	施設の使い方として連続したスペースがあると多様な学習活動は行いやすいと思う。無ければやろうという発想はしないが、広いスペースがあればどのように使うか考えると思う。	社会
3	広いスペースはワークショップのように見る側、行う側が入り乱れて活動を行っているので、階段状のスペースはあまり必要としていない。	生活
4	雰囲気作りをするために場を変えることもある。例えば、暗い方がよければ視聴覚室に行く等。ただ、時間が限られているので一度場所を変えたら教室に戻ることはない。屋外や体育館をクラス単位で使うことはあまりない。	道徳
5	動きが必要であれば最初から広めのスペースを設定する。例えば、海亀の赤ちゃんの話であれば、その動きをみんなで真似してみる等(役割演技、動作化)。	道徳
6	活動形態によっては広いスペースが必要となる。音読することを6グループに分かれて普通教室で練習すると、自分の声も聞こえなくなってしまう。活動を広げたい時に使える部屋があるとよい。グループで小さくまとまっていると、隣のグループの声も聞こえてしまうので、窮屈になってしまう。必要に応じて、活動の形態に応じて、活動場所を広げることができればよい。空いている教室があることや、教室そのものが大きければよいのかもしれないが、オープンスペースは上手く使えれば使いやすいものである。	国語